

様式1 平成25年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	山県市	学校名	山県市立いわ桜小学校		
校長名	戸崎 徳子	対象学年	5・6年・全校	人数	5年(10名)、6年(11名) 全校(44名)
活動名	郷土の食から学ぼう(5年) ふるさと美山の自然を守ろう(6年) 郷土の民話に親しもう(全校)	時間数	5年(70時間) 6年(70時間) 全校(3時間)	継続年数	5年(13年) 6年(13年) 全校(2年)
題材	① 自然環境(山野・河川・動物・植物) [イワザクラ・神崎川・百瀬川・武儀川] ② 歴史(史跡) [九合洞窟・源氏山旗右衛門の碑・涙岩] ③ 文化(芸能・民話) [美山の民話] ④ 地場産業(農業) [北山茶・米・大豆] ⑤ 絆を深め、よりよいふるさとをつくる活動 [ ] ⑥ その他( ) [ ]				
複数年継続するための工夫改善	○本校の総合的な学習の時間「いわ桜タイム」に外部講師による専門的な指導を計画的に位置づけ、地域行事における情報発信を位置づけるなど、学習の成果を公表することで、活動に対する意識の変化や自己の変容に気付けるようにした。また、外部講師による郷土の民話の読み聞かせの会を新たに位置付けることで、郷土への愛着を育む活動を複数年継続できるようにした。				

1. ねらい

- ◎地域で栽培されている北山茶の茶摘み・茶揉み体験活動、米・大豆栽培と郷土の料理との関わりを調べる活動を通して、郷土の食への関心を高めるとともに、自分の食事や健康に関心をもち、食生活や健康の向上を目指して自分ができることを実践することができる。〔第5学年〕
- ◎絶滅危惧種イワザクラを守り育て移植する活動を通し、地域の人々の願いを受け継ぎ、実践しようとする事ができる。〔第6学年〕
- ◎全校遠足や読み聞かせの会を通して、郷土に伝わる「美山の民話」に親しむとともに、郷土への愛着を育むことができる。〔全学年〕

2. 活動の概要

〔第5学年〕

- ・**1学期** 外部講師の指導のもと、種籾から発芽まで気温と水管理に留意し米作りを開始する。その後、外部講師の指導のもと、バケツに稲植えを行う。6月に実施した宿泊学習において、外部講師の指導のもと北山茶の茶揉み体験活動に取り組む。7月には、外部講師の指導のもと、大豆の畝たて・種植えを行い、大豆栽培を開始する。
- ・**2学期** 外部講師の指導のもと、稲刈り、脱穀を行い、教室で乾燥させた後、粳摺りを行う。その後、外部講師の指導のもと芋餅作りや豆腐づくりに取り組む。
- ・活動を新聞にまとめて、学習成果を公表。

〔第6学年〕

- ・外部講師の指導のもと、年間を通してイワザクラを育て、10月に舟伏山山麓に移植し、学んだことをまとめ情報発信する。

〔全学年〕

- ・外部講師による「美山の民話」の読み聞かせの会を、昨年度は2学期と3学期に1回ずつ実施したが、今年度は、学期ごとに1回ずつ年3回実施にした。1回目は、春の全校遠足の折、民話に登場する場所において外部講師による読み聞かせを実施した。



3. 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

- ・5年生では、例年宿泊学習を地域の施設を利用、地域在住の江崎昌弘氏他5名を外部講師として、北山茶の茶摘み・茶揉み体験活動を実施してきた。また、バケツ稲に長年携わって見える市内在住の山内美志男氏とJA美山北支店の指導をいただき、米と大豆の栽培・収穫を実施してきた。収穫後は、外部講師を招き、芋餅作り・豆腐作りを実施した。これらの活動は、児童の食への関心を高め、食生活の向上に向けて食を見直す機会となるだけでなく、郷土の食文化を通して、郷土への愛着を深める機会にもなっている。
- ・全校では、山県市の読み聞かせの会「お話いろいろばた」の長屋久子氏他5名を外部講師として、美山の民話を聞く会を昨年度から実施してきた。本校区には、多数の民話があり、旧美山町教育委員会が発行した「美山の民話 第1集」、「美山の民話 第2集」がある。その民話を児童に読み聞かせることで、郷土への親しみを深め、郷土の再発見につながるものと考えている。本年度は、民話の実際の舞台となった場所で読み聞かせたいと考えた。春の遠足において九合洞窟・源氏山旗右衛門の碑・北武芸資料館の雨乞い石の3箇所で行った読み聞かせの会をもった。その場所において、あるいは実物の雨乞い石を見て民話を聞くことで、当時の人々に思いめぐらせる機会となった。今後も、昨年度から始めた児童に読み聞かせたい民話のパネル掲示の作成を進めると共に、読み聞かせの会を定期的に位置づけることで、郷土への愛着を一層深めていきたいと考えている。

4. 活動による児童生徒の変容(伸長・成長等)

- ・5年生児童は、米作りにおいて一粒の米からできた稲穂にたくさんの籾が実ったことに感動した。収穫まで5ヶ月もかかり、その間の水の管理等の努力が大きな稔りにつながったことを実感した。収穫した大豆からの芋餅作りや豆腐作りでは、多くの児童が、「昔の人の食を豊かにする知恵を学びました。昔の人は大豆を豆腐に変身させることを思いついたことにびっくりしました。」と感想を述べている。米と大豆を通して、郷土の食への関心を高め、感謝して味わって食べたいという気持ちを育むことができた。
- ・6年生児童は、絶滅危惧種イワザクラ大切に育て、地域の自然環境を守っていききたいという願いを一層強くもち、ふるさとに対し愛着をもつ児童に育ってきた。
- ・民話の読み聞かせでは、「自分の住んでいるところに、そんなにすごい力士がいたことに驚きました。」「昔は、水不足で、地域の人々は困っていたから雨乞いをしたことが分かりました。」と感想をもった児童が多く見られた。昨年度から始めた民話の読み聞かせであるが、郷土の歴史に目を向け、郷土を再発見し、郷土への愛着を育んでいくことができると貴重な体験であると考えている。
- ・今後も、本活動を充実させ、郷土に対する誇り愛情を一層深めていきたいと考える。

